

地域及び企業の皆様へ

～地域とともに発展していく大学を目指して～

山形大学は、地域に根ざして世界をリードする大学を目指すため、この山形の地域や企業と連携を深めながら、独自の先端的研究を推進すると同時に、本学が有する知識・技術を最大限社会に還元してまいります。

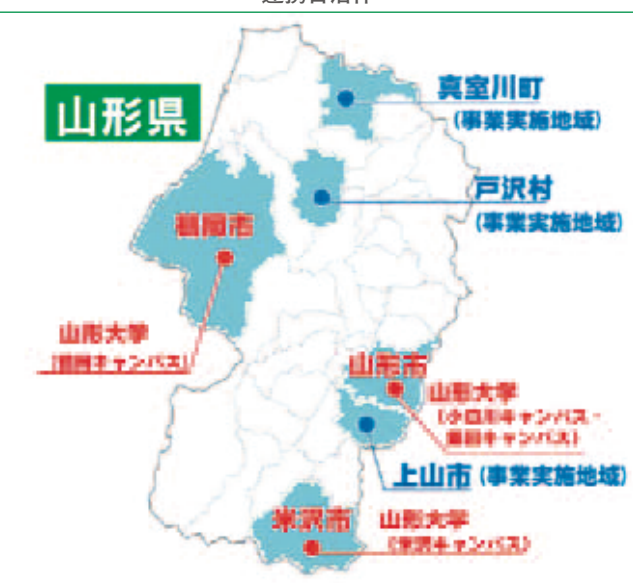
> 山形の地（知）の拠点を目指して ～COC事業がキックオフ～

平成25年度には、地（知）の拠点（COC：センター・オブ・コミュニティ）整備事業「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」が採択されました。

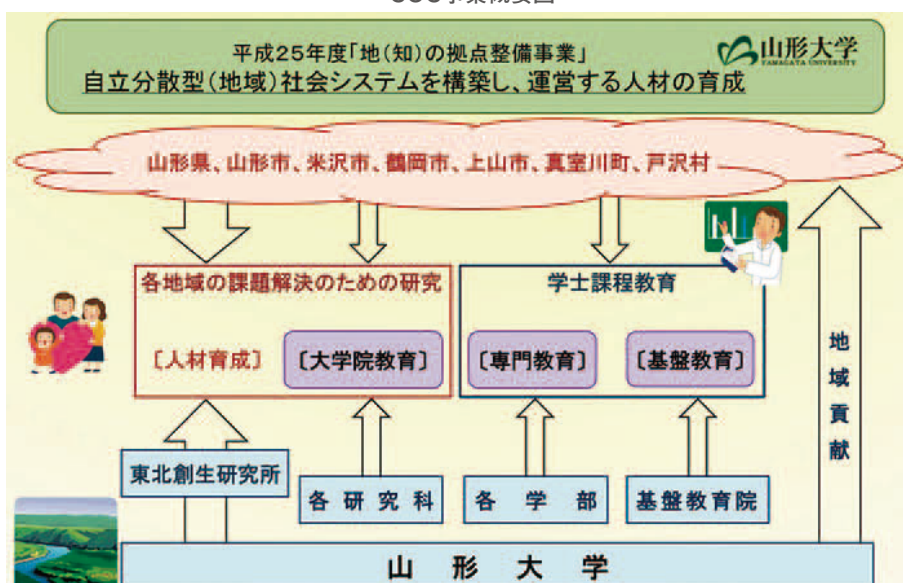
山形大学のCOC事業は、教育、研究、社会貢献の地域志向性を高めることにより、この自立分散型社会システムの構築に寄与し、運営していく人材を育成することを目的とし、個々の事業を実施する「地域」と連携して事業を推進しています。

また、平成25年度の取り組みとしては、今後の事業展開に向けて、学長、理事により構成されるCOC推進本部、コーディネーター等により構成されるCOC推進室、学長・担当理事・各学部等の教員及び県内の連携自治体（山形県、山形市、米沢市、鶴岡市、上山市、真室川町、戸沢村）により構成されるCOC推進委員会を発足させるとともに、平成26年1月にキックオフ・シンポジウムを開催しました。また、地域の課題解決に寄与するため、各連携自治体と協議を重ね、直面している課題を抽出・分析し、具体的な研究に着手しております。

連携自治体



COC事業概要図



トムソン・ロイター
分野別論文引用度指数*
(国内：材料科学分野)

	(論文数)(指数)	
1 名城大学	158	163.6
2 山形大学	220	136.0
3 東京理科大学	543	120.0
4 神戸大学	251	116.2
4 東京大学	2,456	116.2
6 信州大学	556	115.3

(出典：週刊朝日
「大学ランキング 2015年版」)

*論文引用度指数…この数値が高いほど、対象分野において機関が発表した論文数に対する引用回数が高く、活発な研究が行われていることを示しています。

> YU-COE(山形大学先進的研究拠点)

本学において国際的に通用する高い水準にあると認められる研究拠点や、その研究成果により社会、とりわけ地域に大きく貢献すると認められる研究拠点について重点的に支援するとともに、将来そのような拠点となり得る学内の研究グループを発掘し、育成することを目的として本学独自の研究支援制度を行っています。

平成21年度にスタートしたこの制度は、現在、大型の競争的資金を獲得するなど、外部からすでに拠点として認められているものをYU-COE (S) [S=Super] として継続的に支援するとともに、将来、国内外の先進的研究拠点となる可能性を有すると認められる研究について、YU-COE (E) [E=Exploratory] として14拠点を選定し、YU-COE (S) の4拠点については、合計3,000万円の継続支援を、YU-COE (E) については合計で4,000万円の支援を行いました。

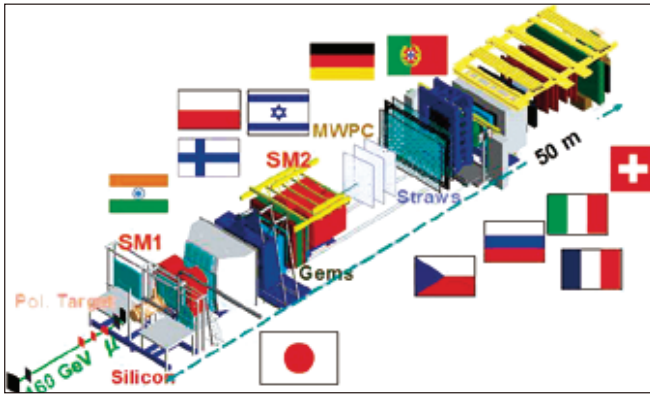
平成25年度 山形大学 YU-COE 一覧

YU-COE (S)

	研究拠点	拠点リーダー
1	総合スピ科学	理学部・教授 岩田高広
2	分子疫学	医学部・教授 嘉山孝正
3	有機エレクトロニクス	大学院理工学研究科 教授 大場好弘
4	山形大学ナスカ研究所	人文学部・教授 坂井正人

YU-COE (E)

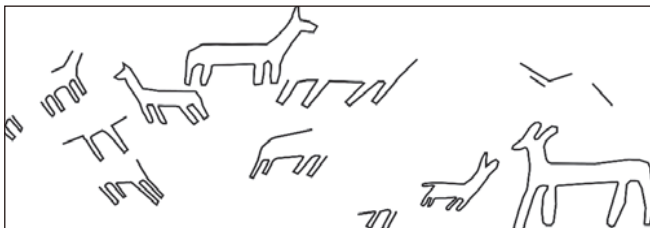
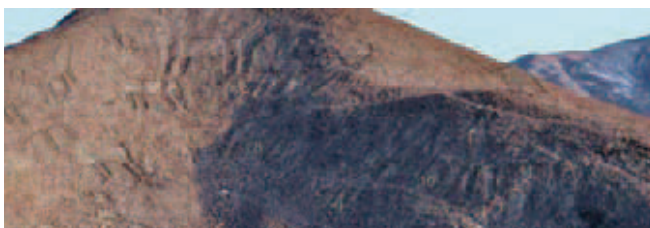
	形成しようとする研究拠点	拠点リーダー
1	低炭素社会をリードする地域型天然ゴム資源活用センター	理学部・講師 大谷典正
2	神経難病の根本的治療法開発のための基礎研究拠点	医学部・教授 加藤丈夫
3	イノベーションと持続的発展を指向するグリーンマテリアルプロセッシング工学研究拠点～グリーンマテリアル加工研究センター～	大学院理工学研究科 教授 伊藤浩志
4	21世紀における自然共生型水稲栽培のアジア学術拠点形成	農学部・准教授 佐藤智
5	偏光をプローブとした高エネルギー天文学の創成拠点	理学部・教授 郡司修一
6	ZT5高性能熱電材料研究拠点形成	理学部・教授 佐々木実
7	パラオ諸島の生物多様性に関する教育研究拠点形成	理学部・教授 半澤直人
8	臨床医学の要求に基づく生体機能修復医工学研究拠点	大学院理工学研究科 教授 山本修
9	微生物を利用した有機汚染物質の無害化研究の活性化産学連携拠点	大学院理工学研究科 教授 原富次郎
10	モデルベースイノベーション研究拠点	大学院理工学研究科 准教授 松田圭悟
11	山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点	大学院理工学研究科 教授 阿部宏之
12	分子標的抗癌剤による薬剤性肺障害研究拠点	医学部・教授 久保田功
13	次世代バイオマス分子資源開発センター	大学院理工学研究科 教授 西岡昭博
14	ライフ・3Dプリンタ創成センター Life-3D Printing Innovation Center (略称LPIC：エルピック)	大学院理工学研究科 教授 古川英光



理学部の総合スピ研究はスイスのCERNにて行われている国際共同研究に参加、研究チームの中で重要な役割を果たしています。



医学部のメディカルサイエンス推進研究所では、基礎医学、臨床医学、社会医学の分野を有機的に連携して山形県コホート研究（分子疫学研究）を推進しています。写真は平成25年5月にグローバルCOEプログラムを総括して開催した「山形県コホート研究（Yamagata Study）発表会」の様子



人文学部の山形大学ナスカ研究所は、ペルー共和国ナスカ市に設立されました。この研究所は地上絵が描かれたナスカ台地への立ち入り調査を実施している世界で唯一の研究拠点です。写真は平成25年に発見したリヤマの地上絵（加工画像）

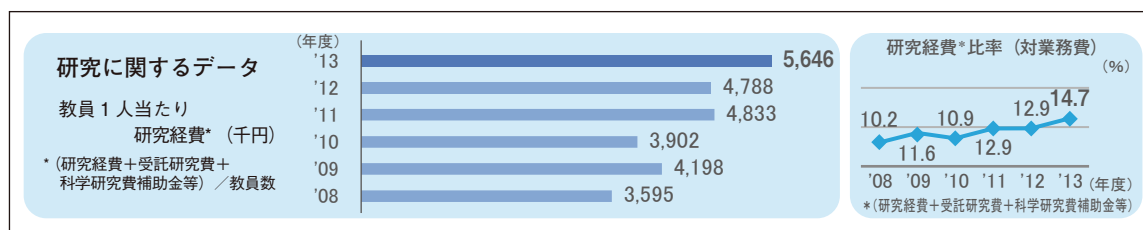


理工学研究科の有機エレクトロニクス研究拠点が中心となる、フロンティア有機システムイノベーションにより目指す未来社会のイメージ

YU-COE (S) に採択されている理工学研究科の有機エレクトロニクス拠点が中心となった「フロンティア有機システムイノベーション拠点」と、平成25年度に新規にYU-COE (E) に指定された理工学研究科の「ライフ・3Dプリンタ創成センター(LPIC)」が、文部科学省が新たに開始した「革新的イノベーション創出プログラム(COI-STREAM)」に採択(*)されており、

「フロンティア有機システムイノベーション拠点」については施設整備費、設備備品費を合わせると計49億円の大型補助金が措置されており、未来社会を革新するイノベーションの拠点創出及び活性化が期待されます。

※革新的イノベーション創出プログラム(COI-STREAM) …10年後を見通した革新的な研究開発課題を特定した上で、企業だけでは実現できない革新的なイノベーションを産学連携で実現するためのプログラム。“COI”は「センター・オブ・イノベーション」の略。「フロンティア」はCOI-T(トライアル)の拠点到、「LPIC」はCOI-Tのサテライトにそれぞれ指定されています。

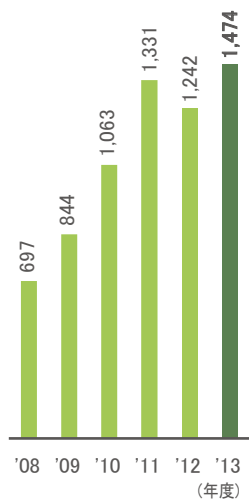


> 外部資金獲得に向けて

競争的研究資金獲得のため、山形大学は、教員に対し様々な支援制度を設けています。

平成25年度は、科研費補助金の採択向上を目指し、ステップアップ支援制度で5人を、若手教員研究助成制度で20人を支援したほか、研究計画調書の作成に関するアドバイザー制度で各学部にはアドバイザー計108人を配置しました。また、新任教員のスタートアップ支援制度で7人を、大型の競争的資金獲得のための支援制度で2人を支援するなど、教員が意欲的に研究に取り組むことができる環境を整備しています。

受託・共同研究費(百万円)



> 地域金融機関とともに「学金連携プラットフォーム」の発足

地元企業の皆様の経営課題・相談ニーズにきめ細かく対応するため、山形大学は、山形県内の全ての地域金融機関と連携し、「学金連携プラットフォーム」を平成25年7月に発足しました。

これにより、大学と企業との橋渡し役となる産学金連携コーディネータが県内全ての金融機関に配置され、本学と地域の企業の連携が一層進むことが期待されます。産学金連携コーディネータは、企業からの相談について経営課題の抽出及び整理を行い、専門性の高い経営課題の場合は、本学を通して専門家や大学研究者の中から当該課題にあった専門家をコーディネートし、企業の課題解決にあたります。大学と地域金融機関がこのような連携体を組織することは、全国でも稀な取組みであり、今後はプラットフォーム参画金融機関と、活動の活性化を図っていきます。

このような人材育成に加え、企業等からの受託・共同研究を積極的に受け入れることにより、産学金連携を通して山形大学が持つ知識・技術を社会に還元してまいります。

「学金連携プラットフォーム」は、中小企業庁が認定する「地域プラットフォーム」(地域の支援機関による中小企業者等支援のための連携体)に、国立大学法人として初めて認定を受けました。

